

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	本年度の反省と来年度に向けての改善策
本年度の重点目標	①新学習指導要領の実施に伴い、評価のあり方の課題を指摘し、学習指導につなげる。 ②通級による指導を充実させ、多様な他者に対する理解を深める。 ③感染症対策を行ったうえで、学校行事・部活動の在り方を工夫する。 ④いじめなどの諸問題を早期に発見し、保護者と連携しながら組織的な対応を行う。 ⑤HPを充実させる。 ⑥教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。			
総務	①保護者との連携の継続	・日本語を母語としない保護者への案内を毎年度行う予定	・学校行事やPTEA行事を安全に実施できるように、三課程で協力していく。	・PTEA 行事は役員及び委員の負担を減らしつつ、有効なものに調整できた。来年度は役員の人数を増やし、多くの方から意見頂けるようにしていきたい。
	②学校行事・PTEA 行事の持ち方	・感染症対策を行いながらの安全な行事の実施	・本年度の実績を踏まえて、各種式典やPTEA 関連行事など安全に実施できるよう、他課程や他分掌と協力していく。	・コロナ時に簡略化した行事等の準備で、後手に回ってしまうことがあった。役割分担を見直し、次に備えるよう準備を進めている。
教務	①新教育課程編成	・卒業条件を満たし、生徒が習熟度に応じて選択、魅力を感じる教育課程の検討	・本校の生徒に合った教育課程の編成について検討を続けていく。	・本校生徒に見合った教育課程編成の検討を重ね、見直しを行った。学校設定教科・科目を新設し、より学習効果が高めるカリキュラムが完成できた。
	②学習評価の改善	・各教科で評価基準や評価方法を決定し、実施する。	・教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。	・観点別評価における評価（ABC）から評定（5段階）を適切に出すために、授業方法の改善及び評価基準の設定を今後更に研究していきたい。
	③学力の向上	・魅力ある授業展開 ・GIGA スクール構想の実現に向けた ICT 機器を活用した授業の推進 ・授業の規律確保	・研究授業を積極的にを行い、日頃の授業改善を図る。 ・GIGA スクール構想の実現に向けて教師の授業のあり方を見直す。	・あいちラーニング推進事業対象校に指定され、タブレット等 ICT を活用した授業を相互参観して、教員の力量向上に努めることができた。
	④基礎学力の定着を図りつつ習熟度を考慮した指導	・個別指導の充実 ・学習サポート ・習熟度に応じた指導 ・外国人サポート事業	・ICT 機器を活用し、習熟度に応じた指導をより充実させる。 ・4月の授業から授業支援（1年生）を入れられるようにする。	・授業規律を生徒および教職員に周知し、雰囲気の良い学習環境を整える協力を呼び掛けることができた。
	⑤言語活動の充実への工夫	・文章を書くこと、人前で発表することの練習	・授業実践の交流を推進する。	・授業参観週間を設け、創意工夫された授業参観を促し、各教科における言語活動充実を努めることができた。
生徒指導（全生徒の顔と名前のわかる生徒指導）	①基本的な生活習慣・学習習慣の確立	・毎日の校門指導の継続 ・入室許可証提出の徹底	・職員への意識づけ・協力体制を強化する。 ・落ち着いた学校生活の確立や虐待に早期に気づくため、身だしなみをよく観察する。 ・入室時間の確認をする。	・生徒指導部と係職員で毎朝校門指導ができたが、講師が年度途中で変更され、担当が曖昧になり徹底できない時があった。また職員室を通らず入退出する生徒はほとんどなかった。
	②規範意識の高揚	・身だしなみ指導の徹底、身なりを正してから職員室入室、授業開始 ・身だしなみ指導の事後・継続指導の実施 ・再登校指導の実施	・全職員で身だしなみ指導をするという意識を高める。	・全教職員が指導日には意識してできた。 ・指導部を中心に学年団、担任における全員で指導することができた。 ・身だしなみ指導は個別に話し合いをしながら丁寧に行うことができた。年4回効果的に実施できた。
	③安全意識の高揚	・交通安全街頭指導の実施 ・防災訓練の実施 ・防犯講話の実施 ・薬物講話の実施(1年) ・人権講話の実施 ・スマホ等安全教室の実施 ・学校生活アンケートの実施 ・校則の見直し	・職員全体で、挨拶・交通安全を呼びかける。 ・防災訓練の実施 ・各学年の担当講師が学年にあった講話ができた。 ・スマホの危険性、依存性についての理解 ・いじめ・体罰の早期発見 ・事後の継続的な指導方法 ・選択制の導入、コロナ禍における柔軟な対応 ・時代に合った校則を検討	・年4回効果的に指導することができた。 ・全職員で、挨拶・交通安全を呼びかけることができた。 ・避難場所に自力で行ける練習、情報に耳を傾け、自分を守る方法を考えさせることができた。 ・薬物、人権について考えさせることができた。 ・校則検討委員会が立ち上がり、保護者・生徒の意見をききながら組織的に検討することができた。
進路	①予測の難しい社会情勢に対応した就職指導	・例年の動きを踏襲した、変化に応じた柔軟な対応 ・ハローワークや、本校他課程や他校からの情報収集と有益な情報の蓄積	・早い時期から「正社員として働く。」「自己の可能性を広げる。」という意識を持たせる。また、基礎学力を身に付ける努力もさせる。 ・積極的にチャレンジする姿勢を持たせる。 ・企業とのきめ細かい情報共有に務める。	・夏休み前にはほぼ全ての就職希望者が志望先を決定し、応募前見学に参加することができていた。新規応募先にも複数生徒が出願できた。 ・多くの企業説明会等に参加することでこれまで付き合いのない企業とも情報共有できた。
	②多様な生徒への更なる就職支援	・外国籍の生徒、また障がいを持った生徒の就職先について、更なる情報収集と対策を講じる。	・日本語の会話能力だけでなく、基礎学力を伸ばす機会を多く持つ。 ・福祉的就労について理解を深め、必要に応じて企業実習への参加を促す。	・基礎学力向上に向けて、適切な課題を設けることができた。 ・福祉就労に向け、ハローワークと協力しながら就職活動を進めることができた。
	③多様化かつ二極化した大学入試に対応した指導	・多様化かつ二極化した大学受験について、本校で可能な指導方法を研究 ・部活動、ボランティア、在校中の様々な活動の促進	・様々な入試方法に対応するため、きめ細かい個人指導を早い時期から実施する。また、校内、校外の活動に参加させ、実績を蓄積させる。 ・生徒が自身の学力を測る機会を持たせる。	・指定校推薦中心ではなく、総合選抜や学校推薦など、生徒の経験や学力の状況にあわせて受験方法を選択できた。また、コロナの余波で公開開場での模試の機会が得られず、有効活用しきれなかった。データの蓄積を含め、模試の受け方を検討していく必要がある。
	④学年会との連携を重視する進路指導	・学年会と連携を取り、学校全体での進路指導が展開できるよう体制の整備	・情報を整理し、迅速な情報提供に務める。	・学年の指導方針に合わせ、連携を図ることができた。今後、わかりやすい指導体制を構築し、基本体制と学年方針を摺り合わせながら進路指導を実践したい。
生徒会	①学校行事の整理	・球技大会へ向けた慌ただしさ軽減のため前期生徒会の募集のタイミングの変更 ・体育大会予行の見直し ・文化祭マニュアルの再発行	・人数が多くなならないよう、生徒会会則を守る。 ・内容を増やし、当日の動きをスムーズに行えるように生徒の指導を手厚くする。 ・3年前まで年度当初に出ていた学校祭マニュアルを復活させる。コロナで行われなくなった内容を精査し、本年度に合うような形式内容で発行する。	・来年度の球技大会を7月に予定し、担任の負担軽減や、生徒の学校生活習慣を軽減できるようにした。 ・学校祭の申し合わせ事項をリニューアルした。特に、文化発表会の内容を検討し、他課程との連携や飲食パザールのゴミ出し方法などを大幅に変更した。また、文化発表会の有志ステージを校内で実施できた。聴く態度も良く、生徒会執行部の力が発揮できた場面であった。来年度も、生徒が活躍する場を提供していきたい。
	②生徒会執行部を学年のつながりが強く育てる	・人数を会則通りにし、業務引き継ぎ体制を構築する。	・人数を会則通りの人数から増やさず、仕事をするときには先輩後輩が一緒になって行うことを徹底する。	・生徒会へ入部する際には必ず面接を行い、執行部員の意識を高く保てるように指導できた。
保健厚生	①清掃活動の充実	・大掃除の見直し ・週末のトイレ清掃の体制を強化する。 ・清掃道具を整備する。	・第1回はワックスがけ、第2回は校舎外の清掃、第3回は校内の清掃を実施する。 ・トイレチェックを継続する。 ・清掃器具庫の整理をし、必要な道具を把握し整備する。	・校舎外清掃を見直し、1年生は9月の除草作業、2～4年生は12月に落ち葉集めを行った。またトイレチェックを美化、保健部員で実施できた。さらに清掃用具を購入した。清掃がしやすい道具を検討していきたい。
	②安全に教育活動が実施できるよう体制を整える	・緊急時対応ができるシミュレーション研修を行う。 ・定期安全点検を実施し、危険個所の改善を図る。 ・危機管理体制の周知徹底を図る。	・保健体育科と連携し、実践的な研修を行う。 ・危険個所を把握し他課程、他分掌と連携を取りながら改善を図る。 ・事故発生時、災害発生時の対応について関係分掌と協力しながら体制を整え周知する。	・12月にアナフィラキシーショック時の対応について研修を行った。研修会において、危機管理マニュアルを周知できた。 ・安全点検を2回実施できた。火災事故防止のチェックも行うことができた。危機管理マニュアルの見直しを行い、災害時の救急対応について追加した。

	③健康の保持増進	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ、インフルエンザ等の感染症の感染状況に応じて、感染対策を確認し感染拡大を防ぐ。 ・健康診断結果等の保健関係統計から生徒の健康課題を把握し、生徒の健康の保持増進に繋がる活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な感染対策、朝の健康チェックを継続する。国、県の指針に基づき対応する。 ・生徒参加型の活動を実施する。 ・「眼の健康について考える期間」を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内において9月から10月にコロナ、11月から12月にインフルエンザが流行した。流行時には換気、手洗いの呼びかけが徹底できた。 ・睡眠と食生活に関するアンケートを全生徒に実施した。その結果から、学校保健委員会において、今後学校で取り組むとよいことを協議した。 ・「眼の健康について考える期間」は通信制と合同で実施していたが、今年度は調整できず実施できなかった。
教育相談	①通級指導の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導を実施し、今後のモデルを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級担当者、相談部、学年主任と話し合い、今後の刈東モデルを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年分の教材・教具を作成できた。個別の対応、卒業後を見据えての計画を今後も作っていききたい。
	②日々の相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者との面談 ・関係者や担任との情報交換 ・ケース会議の積極的な活用 ・外部の専門家・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、特別支援専門家との協働 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談部員の学年へ配置のお願いをしたい。積極的に担任、相談部、学年と情報共有をする。 ・担任を中心にSC、SSW、相談室、保健室、図書室の連携の形を継続する。 ・相談室だよりを発行し、予防教育や支援先の情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年配置はできなかった。積極的な情報交換したい。 ・担任を中心に、学年主任とともに支援の形をつくった。 ・相談室だよりは、継続していく。
	③生徒情報の収集と共有を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生についての情報を集約 ・担任や学年からの情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・困難ケースは、ケース会議を提案し、見立てを共有し、関係者が話し合っ、方針を決める。早期の段階で病院と連携をとる。 ・保健部との合同の健康調査は継続する。 ・個別指導計画は、通級指導計画、支援計画との兼ね合いを考え、作成と利用の仕組みを検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議を行い、支援方針を立てた。病院、市、児童相談所と連携できた。 ・保健部との合同健康調査は生徒資料に活かすため継続していききたい。 ・個別の支援計画は通級生徒に作成し、次の進路先で役立てるようにしていききたい。
	④生徒の理解を深める会議、研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・相談委員会の在り方の検討 ・現職研修の企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解と生徒理解に役立つ心理検査を検討する。 ・特別支援教育、通級の研修会を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理検査の実施に向けて検討できた。 ・研修会は職員会後に全員参加できる会を企画できた。
	⑤「かきつばたの会」の活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・親の会の企画運営会報の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の会の行事、運営の在り方を検討し、教員、保護者が持続可能な安心して参加できる会を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の会は、総会、SC・SSWの講演会、折り紙部による研修が実施できた。保護者の安心に繋がった。
	⑥外部機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・適応教室、病院や相談機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・適応教室や福祉関係の支援機関等を訪問して、関係づくりや情報収集、知見を広める機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の訪問で、顔が見える関係を作り、情報収集できた。今後も継続していききたい。
情報	①HPの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各種告知事項の掲載 ・行事写真の更新 ・他分掌との連携による学校PR 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に注意しながら更新 ・古いデータは削除し、最新情報を掲載する。 ・書類がダウンロードできるようにする。募集説明会開催案内とHP更新のタイミングを合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報掲載がないか再度確認できた。 ・古いデータは順次削除し情報を整理できた。 ・入学選抜に必要な用紙をダウンロード可能にできた。 ・募集説明会開催案内をHPに掲載できた。
	②情報資産の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・情報資産持出管理簿の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報漏えいが起きないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報資産持出管理簿は、記入を徹底することができた。
	③ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTツールの利用推進 ・教員パソコン、生徒実習パソコンの適切な管理・運用 ・プロジェクター等の保管管理 ・生徒用タブレットPCの管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・Groupwareを活用して円滑な情報の授受、ファイルの受け渡しをおこなう。 ・授業、課題などでGoogle Classroomやロイロノートが利点を発揮する場合の活用を推進する。 ・きずなネットの登録を推進し、家庭への連絡と家庭からの欠席遅刻連絡の円滑化をはかる。 ・番号の添付などをおこない管理物品の位置や状況を適切に把握できるようにする。 ・年度更新や入れ替え、配備位置の決定ならびに日々の利用中のトラブルについて滞りなく対処する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Groupwareを利用したファイルの授受を周知し、利用が徐々に広がっている。またGoogle Classroomとロイロノートの活用が理科で特に広まった。 ・きずなネットの登録と欠席遅刻連絡の利用が広まり、電話連絡がかなり軽減できた。 ・サーバ上のデータを整理できた。 ・配備機器について番号添付と配置場所が明確となるよう表示できた。 ・教員用・生徒用タブレット端末の故障は即日もしくは翌日に対処することができた。
	④図書館の利用促進と読書指導	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすくなる環境作り ・図書館企画の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・配架と展示の工夫をする。 ・図書館企画、図書館報の内容を検討する。 ・「生きる力講座」の継続を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きる力講座を2回実施できた。 ・書籍レビューとビブリオバトルの連携を行い、出場者のスムーズな決定ができた。
1年生	①基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する意識を高める。 ・理解できないときは、質問に行く習慣付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任とも連携して授業を第一に考えさせ、「聞くチカラ」を滋養する。 ・調査前の学習サポートを含めて、生徒が質問しやすい環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査前サポの有効活用。学年団全員で取り組めた。参加者はほぼ100%赤点を回避できた。他学年にもこのやり方をお勧めしていききたい。
	②高校生活や学校への定着	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の情報共有 ・学校行事やHR・総合の時間を利用して、学級・学年・学校になじませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の情報共有を普段から迅速に行えるよう態勢を整える。 ・グループ学習や班別行動を取り入れ、友達と話す機会を増やす工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンプラリーの善用。生活習慣の涵養に力があつた。 ・夏休みにバーベキュー、10月にテーブルマナー。次年行事を重ねるごとに参加率が上がっている。
	③進路意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に出て行く準備が始まるということ意識させる。 ・欠席・遅刻・早退を極力減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部との連携 ・外部講師の活用 ・ボランティア活動、資格取得に取り組ませる。 ・保護者にも進路情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・3卒4卒の選択を丁寧に行った。お試し6時間授業、4卒クラス生徒・4卒クラス担任経験教員の話を実施できた。 ・2学期末「親子で進路説明会」。卒業までの進路計画を提示できた。平日にも係わらず60人の保護者が参加した。
2年生	①基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来を見据えた学習体験を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業も次年度は難易度を増し、自分に不足する部分は自分で気づき、補うよう働きかけたい。就職は敬語、一般常識が必須である。進学は学びたい分野に対してのより高度な知識が必要である。学習のモチベーションを明確にさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対してのモチベーションに個人差が大きく、進学に向け自主的に勉強している姿を見かける者もいれば、定期考査に向けての準備すら怠る者もいる。日々コツコツと積み上げ、成果を得るような体験を学校生活の中で特に学習面に盛り込んでいく必要がある。
	②学校生活への定着	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活での活躍の場を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活でも学校行事でもクラスの中でも学校における何かしらの場面で自分が何を成したかを実感できる経験を積ませたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には受け身の姿勢である。行事ごとに振り返りを実施し、自らの役割や感じたことに思いを巡らせる振り返りの場面を設定していききたい。
	③進路意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・進路のビジョンを持たせ、それに向けての準備を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学に行く、比較する、環境に触れるなど、ネットや紙面の情報だけでなく、自分の足で情報を得て、考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望の大半の生徒は夏に会社見学を実施できた。進学希望はオープンキャンパスや模試の案内などを投げかけることができた。3年卒業の生徒へはおおむね進路に対しての意識付けができたと考えられる。
3年生	①進路実現にむけた行動と生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要なマナーを自分たちで声かけできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員からの指示や注意ではなく、場面にふさわしい態度や振る舞いになるよう、意識付けしていく。 ・体調管理やメンタルケアの啓発を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや意志で行動することを、行事ごとに伝え指導できた。今後も自発的な行動ができる生徒の育成に向け、根気強く声かけをしていききたい。
	②生涯学習に接続する学習習慣・方法の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・通常授業と総合やHRなどで連携をはかり、授業の知識を生かす経験を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目的や将来への関連性などを伝えていく。 ・学年内で情報共有を密に行い、授業の内容や進捗度に合わせて総合HRや行事の計画を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合やHRは実社会に役立つ内容を取り入れた。進学や就職の情報提供、お金の知識、勤労、人権など多くのことを行った。生徒からも好評であった。
	③共生社会を生きる意識と態度の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・総合やHR、各種を通じて、自己主張や意見の擦り合わせを経験し、双方の意見を生かす方法を学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を押し付けたり、主張をせずに従ったりするような状況にならないよう、話を最後まで聞く習慣を付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共生は第3学年の目標であり、1年次から伝えている。本校は共生が必須の環境であり、根気強く話をしていくことが大切である。今後も卒業まで話を続けていききたい。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領をふまえた評価のあり方について研究する。 ・ICT機器の活用など授業改善に向けた取組 ・いじめの未然防止・早期発見に向けての組織的対応 ・多様な生徒理解を深めるための通級指導の充実 ・3・4年間を見通した進路指導の充実 ・学校の良さを伝えられるHPの更新 ・教職員が計画的に休暇を取得できるよう、業務適正化・環境整備を図る。 ・職員の服務規律の徹底 		